

平成28年度近畿部会第137回例会を下記のとおり開催します。今例会は、ワークショップの形式で、定員20名の、事前申込み制となっております。参加を希望される方は、裏面の参加申込書にご記入の上、FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。会員以外の方でも参加は可能です。積極的なご参加をお待ちしております。

近畿部会第137回例会

- と き 平成28年  3月12日（土）午後1時00分～4時00分
- ところ 京都造形芸術大学 人間館 3階
所在地：〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116
電 話：075-791-9122（代表）
交 通： 京阪出町柳駅より、市バス上終町3系統／
上終町京都造形芸大前行 「上終町京都造形芸大前」下車
（所要時間約15分）すぐ。
叡山電車（京阪出町柳駅乗りかえ）茶山駅下車、徒歩約10分
<http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access/#kyoto>
- テーマ 「古文書の損傷と処置方法についてのワークショップ」
- 報告者 大林賢太郎 氏（京都造形芸術大学歴史遺産学科 教授）
- 内 容 昨年度実施したワークショップ（第132回例会）に引き続き、和紙を中心とした古文書にスポットをあてます。古文書の多くは虫食いなどの損傷が見られ修理が必要です。しかしながら、市町村などでは古文書修復に充てる予算や時間が少なく、修復技術を習得する場も十分とは言えない状況にあります。
古文書に携わる人たちの技術向上の機会として、このワークショップにぜひご参加ください。

第 132 回例会 タイムスケジュール

12:45 開 場

13:00 開 始

イントロダクション

本格修理と対症処置について

1. 本格修理＝伝統的な古文書の補修方法（＝手繕い）と
新しい補修方法（＝漉嵌と D.I.I.P.S.）（解説）
手繕いの一例（実演＋実習）
2. 対症処置（応急処置を含む）の考え方（解説）
文化財修理で使用できる補修材料（補修紙と糊）
糊の調製（実習）
3. 対症処置の実習
固着文書の展開（実演）
微小点接着法を応用した補修（実習）

おわりに

16:00 終 了

古文書料紙調査のためのワークショップ

参加申込書

氏 名 (フリガナ)	
住 所	
電話番号	
所 属	
会 員	会員 通信会員 非会員

FAX送信先 : 075-791-9466

郵送先 : 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立京都学・歴彩館内 全史料協近畿部会事務局 宛

2月28日（火）必着

※個人会員の方、機関会員の場合お一人の参加費は無料です。

※通信会員の方、非会員の方は、参加費として500円いただきます。当日お持ち下さい。

※応募者多数の場合抽選といたします。抽選の当落は、電話でお知らせします。

お知らせ

アーカイブズ学会関西研究例会

(日時) 2017年3月10日(金) 18:00~20:00

(場所) 追手門大学梅田サテライト(JR大阪駅から徒歩2分 阪急ターミナルビル16階)



<http://www.otemon.ac.jp/umeda/>

(報告者) 奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員 黒田洋子

(題目) 「書」から歴史情報を読み取る

— 奈良時代の書状データベース構築の目的と試みについて —

(文科省科研基盤研究(C)「書状文化の源流を求めて」による研究成果の報告)

(報告要旨)

「書」は発信者によって意図的に選択されるものである。すなわち言葉とは別に、「書」自体が歴史情報を内包している。「書」の持つ歴史情報を読み解き、歴史資料をより深く理解するためには、画像データの構築は必要不可欠である。

また近年歴史資料のテキストデータ化が急速に進展しつつある。そのような中で、「書」の持つ歴史情報をどのようにしてデータ化し未来に伝えて行くことが有効であるか。

以上のような観点から、古代史史料のデータベース化を行う試みを紹介したい。

※全史料協近畿部会後援の講演会です。ご参加お願い致します。